



紫芳会だより ～輝く先輩達～

No.51
2016.12.1.発行

株式会社 童心社 代表取締役 社長 **田中 正美氏** (高校23期)

- | | | | |
|-------------|---|------------|---|
| 1952年8月13日 | 東京都杉並区生まれ | 1993年9月30日 | 株式会社丸昌退社 |
| 1971年3月31日 | 東京都立川高等学校卒業 | 1993年10月1日 | 株式会社第一経営相談所入社
(1994年4月取締役本部事務局長、
1998年12月取締役経営本部事務所長) |
| 1972年4月1日 | 慶應義塾大学経済学部入学 | 2005年3月31日 | 株式会社第一経営相談所退職 |
| 1976年3月31日 | 慶應義塾大学経済学部卒業 | 2005年4月1日 | 株式会社童心社入社 |
| 1976年4月1日 | 埼玉県庁入庁(企業局、春日部保健所、
県議会事務局、パスポートセンター勤務) | 2005年5月25日 | 取締役総務部長就任 |
| 1990年12月31日 | 埼玉県庁退職 | 2013年5月23日 | 代表取締役社長就任 |
| 1991年1月1日 | 株式会社丸昌入社(総務部長) | | |

早いもので、私が立高を卒業して46年が経とうとしています。

私の在学当時は学園紛争の激しい時期でもあり、若者たちの社会への意識も高まっていました。立高でもバリケードストライキが行われたことを機に、教育や社会の在り方について生徒一人一人が広く深く考えることとなりました。

自殺者を出したり、一部暴力的な行為もあつたりして、当時在学した多くの生徒は、その後も自分たちの日本という国と、真剣に向き合うことを強いられたのではないのでしょうか。

私は卒業後、比較的舞台を変えながら歩んできたように思います。一浪して私大に入り、第二次オイルショック後の就職難の時期に、公務員試験に絞って埼玉県の職員となりました。15年弱勤務後、「晴れ着の丸昌」という呉服屋さんに転職、3年の後に大学の友人が代表になるタイミングで大規模な会計事務所に移りました。そして約12年前に紙芝居と絵本の出版をする童心社に迎えられ、4年前から代表を務めています。

自分の人生では、社会に役立つ真摯な生き方をして、それが自分の満足にもつながることを目指しているつもりです。公務員では住民のため、丸昌では若い女性の成人の記念のため、会計事務所では中小企業の経営と納税者の権利を守るため、という意識でした。

そして今は、「子どもの幸せと平和を願った」出版の場に身を置いています。童心社では、紙芝居と絵本などを通じて、子どもたちが楽しみ、感性を豊かにして、自律した人間へと成長することを応援したいというのが、会社の理念で、出版活動の根底にある考えです。

先人たちが築いてきた財産としては、累計発行部数600万部を超え、日本で一番読まれている絵本『いない いない ばあ』をはじめ、ロングセラーの赤ちゃん絵本や紙芝居があります。そして、将来にわたって親子で読み継がれる次なるロングセラーの出版を目指してもいます。日本独自の文化である紙芝居も、世界へと広がり、ヨーロッパから今日では中国への急激な浸透が進んでおり、私も何度か中国に足を運んでいます。



紙芝居『おおきく おおきく おおきくなあれ』と田中氏

会社を経営する立場としては、理念を持った出版を継続することで安定した経営基盤を築き、社員が成長し創造する喜びを感じられる企業づくりに、みんなの力も借りて日々悩み、つまずきながら取り組んでいます。

多くの方に学び、支えられてきたのは、かわかりあうことで成長するのが人間の特性と考え、積極的に発信、行動してきたからではないかと考えています。

~~ 童心社をはじめ各社から刊行されている、すぐれた絵本や紙芝居の数々~~

